

平成29年度 各分掌部・学部目標及び自己評価

NO. 1

A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
教務部	①小学部、中学部、高等部の行事の系統性について見直しを行う。	・児童生徒の障害や特性に配慮し、学部間の系統性が図られているか照らし合わせながら、各学部における行事の目的や学習内容等について見直しを行う。	・児童生徒の障害や特性に配慮しながら学部間の系統性を踏まえて、次年度の行事の調整ができたか。	A	・学校全体の行事一覧表を作成するとともに各学部で学習する内容について確認した。課題点を挙げ、学部ごとに検討して次年度の行事の調整をすることができた。	・行事の目的に添った指導方法の十分な検討を行い、さらに豊かな体験的学習が行えるように工夫する。
	②教職員への新学習指導要領の周知を図る。	・校内伝達会を実施し、教職員の新学習指導要領の理解を図り、適切な教育課程を編成する。	・教職員への新学習指導要領の周知が図れ、教育課程の編成に活かすことができたか。	B	・夏季休業中に校内伝達会を実施し、新学習指導要領の改訂点について周知できた。次年度の教育課程は、県の方針を受け大きな変更点はないが、新学習指導要領の完全実施に向けて引き続き準備を行う必要がある。	・平成32年度の小学部の完全実施に向けて、教育課程表や日課時間割の検討に引き続き取り組む。
学習指導部	①自立活動の指導の充実を図る。	・自立活動の指導の定着を図るため、自立活動系の業務内容を確立する。	・自立活動の指導に生かせる業務内容を盛り込んだ年間計画を立て、実施できたか。	A	・事例検討会や校内研修を計画し、自立活動の指導に関する基礎的な知識を得る機会を設け、指導に役立てることができた。	・次年度も校内のニーズに応じた検討会や研修会を計画、実施する。
	②児童生徒の発達段階と特性に即した個別の指導計画を作成し、指導を実践する。	・支援計画の作成について全職員で共通理解を図るとともに、引き続き資料の精選と有効的な活用法を検討及び研修する。	・的確な実態把握から、具体的な指導計画の立案、評価がされていたか。	B	・職員研修を実施したり、引き継ぎの資料の精選を行い、具体的な指導計画が立案されたが、保護者の理解や満足度が十分ではなかった。	・個別懇談において児童生徒の実態や目標について共通理解を図り、保護者の願いを汲んだ話し合いを十分に行う。
児童生徒指導部	①防災マニュアル、緊急時対応マニュアルの整理、見直しを行う。	・それぞれのマニュアルについて整理し、各項目ごとに改善を加えながらより効果的に運用できるようにする。	・問題点を洗い出し、検討、改善しながらわかりやすくまとめることができたか。	A	・危機管理マニュアルの編纂に関連させながら、複数のマニュアルについて大幅に整理、見直しを行うことができた。	・実際に運用しながらさらに改善をしていくとともに、他のマニュアルについても整理、見直しを行っていくようにする。
	②地域・関係機関との連携を図る。	・地域、関係機関と話し合いや連絡を取り合う機会を多くもち、児童生徒に関する情報提供や校務運営上のアドバイスを受ける。	・いつでも円滑に連絡、協力できる体制を作り、情報提供やアドバイスを多く受けることができたか。また、それらを校務運営に役立てることができたか。	A	・各係ともそれぞれの関係機関と連携しながら、行事の運営や児童生徒への指導を行うことができた。	・連絡をさらに密に取ることで、多くの情報提供やアドバイスを受けることができる関係作りを進めていく。
地域支援部	①本校の教育活動や特別支援教育に関する情報発信の充実を図る。	・地域のニーズの把握に努め、地域の関係機関との会議、研修、体験学習等の内容の工夫、改善を図る。	・地域のニーズについて情報を収集し、それらを積極的かつ具体的に会議、研修、体験学習等の内容に反映できたか。	A	・今年度より本校生対象の中学部体験学習を実施したり、地域からの要望に応じていちご教室の教材展示などを実施したりするなど、情報発信の充実を図った。	・関係機関との会議や研修などのアンケート等を利用し、地域のニーズについて今後も積極的に情報を収集し、本校としてできることを検討していく。
	②地域との連携体制を積極的に活用する。	・「外部講師連絡票」の積極的な活用、充実に向け、職員に周知を図り、活用の機会を増やす。	・職員への周知、啓発のために、他校での取組について情報収集するなど、本校における具体的な取組を検討、実践できたか。	B	・他校の情報を何校か集め、それらを参考にして、廊下に地域連携係管轄の掲示板を作成した。講師の一覧表やボランティアの活動の様子紹介を掲示し、職員への啓発に取り組んだ。	・ボランティア活用の機会は増えなかったが、今後も啓発は継続していく。 ・ボランティア情報更新の回数を増やす。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評 価	自 己 評 価	改 善 方 策
健康指導部	①「歯と口の健康について」の指導の充実を図る。	・外部専門家を活用し、効果的な指導について研究する。	・外部専門家による指導を検証するとともに、日常の指導で活かすことができたか。	B	・外部専門家による指導を各学部で実施することができた。実施した学年においては、日常生活の指導で活かしたり、保護者への啓発などを図ったりすることができた。	・外部専門家による指導を実施学年以外の教職員や保護者へも共通理解を図り、日常生活で正しい歯の磨き方を指導していく。
	②食物アレルギー対応の周知徹底を図る。	・年間計画と個別の取組プラン等、全職員に周知徹底を図る。	・給食委員会、給食指導係、担任が連携し、個別の取組プランの作成や実施、次年度への引き継ぎがスムーズに行えたか。	A	・次年度の引き継ぎがよりスムーズに行えるように年間計画を変更し、学校生活管理指導表の提出の時期を早め、各担当が連携して手続きを行っている。	・引き続き全職員へのアレルギー対応の周知徹底を図る。また、緊急時の対応も引き続き研修で確認していく。
進路指導部	①教職員や保護者へ進路に関する情報を提供し、理解を深める。	・進路だよりや学年だよりでの情報提供、及び福祉サービス事業所のサービス内容や手続きの仕方等をまとめたガイドブックを作成する。	・教職員や保護者が進路に関する理解を深め、進路先の選択や手続きをスムーズにできたか。	B	・進路便りの発行回数を増やし、学年便りでは進路に関する情報を掲載した。福祉サービス事業所のガイドブックは年度内に完成する。	・進路については卒業学年にならないと進まない様子が見られるが、引き続き情報提供をしていきたい。また、進路便りや学年便りの内容を検討し、早いうちから進路について関心が持てるようにしていきたい。
	②現場実習、職場体験等の受け入れ先事業所を確保する。	・関係機関や就労支援コーディネーターと連携し職場開拓を行う。	・関係機関や就労支援コーディネーターと協力して実習受け入れ先事業所を確保できたか。	A	・関係機関や就労支援コーディネーターと連携して、生徒の希望する実習先が確保できた。	・引き続き関係機関等と連携をして、職場開拓を進めていきたい。
渉外部	①PTA活動を推進する。	・専門部会の活性化を図るために、通知や開催の仕方を工夫するとともに、自発的な活動を促すようにする。	・各専門部の参加人数が増え、保護者主体の活動のもと、保護者同士が協力し合えたか。	B	・専門部によっては、保護者主体の活動が根付き、保護者同士の協力体制もとられつつある。まだ、改善が必要な専門部もある。	・すべての専門部の年間活動計画を作成するとともに、保護者用(部長用)のファイルも作成し、意識付けを図り、主体性を促していく。
	②支部会活動を充実させる。	・役員会などで、3支部の支部長同士が情報交換をする機会を設けて、活動の充実を図る。	・いろいろな情報を得て、活動内容を工夫するなどして、より充実した活動ができたか。	A	・年度初めの役員会で、新旧支部長同士の引き継ぎ会を設けたことにより、充実した活動に向けて、情報交換ができた。	・支部会のあり方もある程度整理されてきたので、今後うまく引き継いで行けると良い。
特別活動部	①各活動を通して児童生徒の豊かな心を育成する。	・道徳心や協調性、向上心等を育て、達成感を味わえる、運動会、こぶし祭、部活動等を実践する。	・運動会、交流学习発表会、部活動等において、児童生徒がのびのびと楽しく活動することができたか。	A	・各行事及び部活動ともに児童生徒が生き生きと楽しく活動することができていた。	・保護者からの希望等も取り入れながら内容等を検討し、更に充実した活動にしていく。
	②児童生徒間のふれあいを充実させる。	・新入生歓迎会や全校集会、児童生徒会役員選挙等において、児童生徒会役員や児童生徒会選挙管理委員会を中心とした活動を促進する。	・諸活動を通して、児童生徒間のふれあいや好ましい人間関係の育成ができたか。	A	・新入生歓迎会、全校集会においては学部を越えた児童生徒間のふれあいを感じることができた。	・こぶし祭のテーマをみんなで作るなどの交流の場を今後も続けていく。
情報部	①教員のICT活用能力の向上を図る。	・タブレットや電子黒板などの新しい機器を活用できるよう支援を行う。	・校内研修等の機会をとおして、ICTの活用に関する知識、技能の充実を図ることができたか。	A	・夏期研修で外部講師を招き、電子黒板の基本的な使用方法について学んだ。	・児童生徒の実態に合わせた利用法を探り、授業で活用できるようにしていく。
	②保護者、地域、関係機関との連携を強化する。	・保護者及び地域に向け、ホームページ、一斉メールシステム等を活用した積極的な情報発信を行う。	・行事や授業の様子等、本校の教育に関する情報を随時発信することができたか。	A	・行事の計画段階でホームページ執筆担当を決めたことで、多くの情報を発信することができた。	・計画段階でホームページ執筆担当を決めておくことを継続していく。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
小学部	①学校生活の様々な場面に応じた挨拶や返事を積極的に行う児童を育成する。	・実際に挨拶をする場面で教師が率先して実践したり、返事を促したりする。	・各児童の実態に合った表現方法で、積極的に挨拶や返事をする児童が増えたか。	B	・教師からの支援を受けた挨拶や返事をする児童がいる一方で、登校時等、学校生活で積極的に挨拶ができるようになった児童も見られた。	・教師が率先して挨拶をする等の指導を継続する。
	②本校におけるキャリア教育を理解し、小学部の研究の方向性を確認し、学校課題に取り組む。	・キャリア教育の全体計画やキャリア発達段階の観点を中心に、小学部段階の育てたい力を考える。	・学校生活や授業等での指導内容をキャリア発達段階の各観点から捉え、どのように成長を促すことができるかを検討できたか。	A	・各ブロックごとに授業の単元・内容等をキャリア教育発達段階表の育てたい力の各観点から振り分け、どのように授業に反映させるか話し合いを持つことができた。	・話し合いを深め、授業で実践していく。
中学部	①生徒の実態に応じた方法で理解を促し、基本的な挨拶・返事ができる生徒を育成する。	・生徒の実態をグループに分け、実態に応じた目標や方法を設定して指導にあたり、経過を検証していく。 ・教員が模範を示す。	・生徒の実態に応じた目標を設定し、生徒の意識を高めて挨拶・返事が習慣化できたか。	A	・各学級ごと生徒の実態に応じた目標を定め、教員が模範を示しながら日常的に随時指導することで、個人差はあるが、それぞれの実態に応じた形で何らかの変化、向上が見られた。	・今後も定期的に経過を検証し目標や手立てを見直ししながら指導を継続し、キャリア教育の一環として定着させていく。
	②キャリア教育の基本を踏まえ、中学部段階の取組について共通理解を図り研究に取り組む。	・キャリア教育全体及び中学部段階のキャリア発達の視点を踏まえて、教員の共通理解を図り見通しをもって研究に取り組む。	・中学部教員が、キャリア教育について全体及び中学部段階における視点を踏まえ、見通しをもって指導にあたることができたか。	B	・係を中心に中学部教員全員で、中学部の学習内容や指導目標とキャリア発達段階の観点とのかかわりを検証し、現状及び今後の方向性について確認することができた。	・今年度見直した年計や目標を基に、指導を実践し、さらに改善点を検証していく。 ・中学部全教員で役割分担をし、情報を共有しながら研究を進める。
高等部	①挨拶、言葉遣い、身だしなみなど社会で求められる基本的生活習慣の向上を図る。	・目標の共通理解を図り、各学期実習前2週間の強化期間を設ける。	・現場実習の評価や学校評価において教職員、保護者から良い評価を得ることができたか。	B	・実習時の評価もおおむね良く、また、学校評価の基準「ややあてはまる」まで含めると約9割の方ができているとの評価であるが、一部指摘を受ける生徒もいる。	・継続して取り組むとともに生徒指導部との連携を図りながら、個別の対応を含めた指導を進めていく。
	②学校課題(キャリア教育)の推進にあたり、学部での研究の方向性を確立し、研究内容の検討と実践を行う。	・作業学習の授業において「作業を効率的に行うために自発的に行動できる能力」の向上を目指した研究を各作業班が一事例をあげて進めていく。 ・自分の将来をどう考えるか「じぶん未来学」と関連付けて研究を進めていく。	・効果的な研究の検討と実践ができたか。	B	・テーマに基づき、各作業班が所属生徒の実態や作業内容などに応じて研究に取り組めた。	・中間報告を経て、さらにテーマの沿った効果的な研究が進められるよう、各作業班で実践内容の見直しを行っていく。